



唐沢山…藤原秀郷公の居城趾といわれる、深い歴史を持つ山

令和6年3月1日

第30号

発行 佐野市町長連合会
編集 会報編集部会

令和5年度佐野市町長連合会管外視察研修会を実施

5年ぶりの管外視察研修
福島県双葉町へ

去る11月15日（水）・16日（木）、町会長連合会主催の管外視察研修会を実施しました。この研修会は、地域環境や住民ニーズの多様化により、その地域に発生する様々な課題に対処することが期待される町会の代表者である町会長のスキル向上や連携を深めることを目的に実施しているものです。台風19号災害やコロナ禍による中止を受け、5年ぶりの研修会となつた今回、厚木会長以下39人の町会長が参加し、福島県双葉郡双葉町の「東日本大震災・原子力災害伝承館」を視察研修しました。

2011（平成23）年3月11日に発生した「東日本大震災」は、三陸沖を震源とする最大震度7という日本観測史上最大規模の地震で、地形が変わる激しい揺れと大津波が東日本の沿岸部を襲い、東京電力の福島第一原子力発電所で原子力事故が引き起こされました。死者・行方不明者は12都道府県で1万8千人を超える広域かつ甚大な災害となつただけなく、第原発の廃炉や、放射性物質の除染土壤の最終処分の方、風評被害への対応など、終わりが見えない課題が山積しています。今年1月に発生した「能登半島地震」では、多くの方が被災され、200人を超える方が亡くなられ、現在、災害復旧事業が鋭意進められています。今後も、いつ、どこで命に関わる災害が発生するか分かりません。双葉町では未曾有の災害に、復興にどう向き合ってきたかを学び、過去から教訓を得て、災害に備えることが防災、減災につながることから、東日本大震災・原子力

災害伝承館に視察訪問したものです。また、車中でも、各町会の抱える問題提起や解決策を模索したり、東日本大震災の影響で起きた福島第一原子力発電所事故のビデオを視聴するなど、情報の共有化を図りました。

佐野市町長連合会

会長 厚木 健志



11月15日、一路福島県双葉町に在ります

「東日本大震災・原子力災害伝承館」に向かいました。双葉町に入りますと田畑が秋の収穫を行つており「復興」しているなど感じましたが、よく見ますと、放射能汚染土を入れた黒い袋が至る所に山積みされ、廢墟になつた家々等、「復興はまだまだ先だな」と改めて感じました。

三階建ての伝承館で「つなぐ教訓・未来への道標」を視察、未曾有の複合災害が多くの命を奪い、被災者の人生を変えた災害を再確認し、「戒め」として気持ちを新たにしました。

佐野市も台風19号にて、甚大な被害を経験しております。各町会も改めて「防災」について検討していくかなめ」として気持ちを新たにしました。

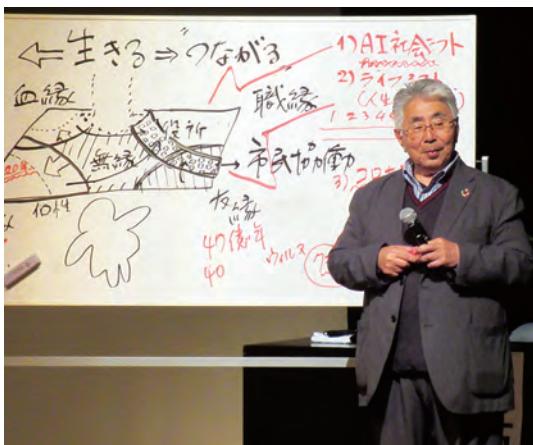
また、車中や懇親会の場にて、町会長同士の交流による町会間のつながりが図れるなど、有意義な時間が過ごせたと思っています。来年度もぜひ多くの町会が参加し、「互助」のつながりの強い連合会にしたいと考えております。

市民協働による地域づくり講演会開催

10月26日(木)、市文化会館にて佐野市町長連合会主催の「令和5年度市民協働による地域づくり講演会」を開催しました。

当日は、町会長や町会役員地域担当市職員など約200人が来場。昨年に続き講演された、講師の茨城県生涯学習社会教育研究会会長の長谷川幸介先生の経験を交えた軽妙なトークに、参加者は皆引き込まれ、大変充実した講演会となりました。

長谷川先生の「人は幸せになるために、多様な『つながり』を作ってきた。町会もその一つであり、みんなで幸せを作り出す優れた仕組みです」との説明に、参加した各町会長の皆さんも大いに



また、赤坂町会の赤坂八坂会が、地元神社の神輿でみこし巡行に参加。齋藤武男赤坂町町長は「赤坂八坂会、氏子、町会の皆さんとの協力で、参加継続する」とがでました。この継続が町会内外の交流を深めることにもなり、大変良かった」と参加意義を話してくれました。

に勇気づけられていきました。

また、「コロナ禍や少子高齢化などにより、町会を取り巻く環境も大きく変化しており、次の世代に町会という幸せを作り出す仕組みを継承していくために、町会も変革してゆく必要がある」と既に取り組んでいる団体もあることを、先進事例を挙げながら説明いただきました。

主催した厚木健志町長連合会会長は「先生の『人は一人では生きられない、町会は皆がひとしく幸せになるために生み出された仕組みであり、個人のメリットやデメリットで考えるものではない』との言葉に力づけられた。来年も先生の講演を聴きたい」という声も上がる、大変有意義な講演会となつてよかったです」と感想を述べました。

町長連合会では、今後も町会運営の参考にしていただくため、同講演会事業を開催してまいります。

伝統ある同祭りは、これまで7月下旬の2日間で開催してきましたが、少子高齢化による担い手不足と夏の猛暑を避けるため、今回から10月第1曜日の実施となりました。

時折小雨が降る中にもかかわらず、稚児・手古舞行列、おはやし、御神輿が、朝日森天満宮から星宮神社を経由し、市役所周辺などを中心市街地を「家内安全」や「商売繁盛」を祈願しながら、賑やかに練り歩きました。

10月1日(日)、朝日森天満宮と星宮神社(大蔵町)の両社による「佐野まつり」が、4年ぶりに開催されました。



5年ぶりの佐野まつり

さの秀郷まつりに参加 赤坂八坂会

9月16日(土)、「コロナ禍で中止された「さの秀郷まつり」が4年ぶりに開催されました。

さの秀郷まつりに参った。メインステージには、さのまるやひこにゃんが登場し、市庁舎周辺道路では市民総おどりやみこしあはやし巡行が行われました。

さうに、市庁舎をスクリーンにしたプロジェクトショノマッピングが初めて行われるなど、参加者も来場者も、4年ぶりの祭りを存分に楽しんでいました。

また、赤坂町会の赤坂八坂会が、地元神社の神輿でみこし巡行に参加。齋藤武男赤坂町町長は「赤坂八坂会、氏子、町会の皆さんとの協力で、参加継続する」とがでました。この継続が町会内外の交流を深めることにもなり、大変良かった」と参加意義を話してくれました。

落合勝敏 金屋仲町 永年在職町会長15年表彰



波音飛行記

長年にわたつて町会活動に貢献された方が、佐野市町会長連合会表彰、栃木県自治会連合会自治振興功労者表彰をそれぞれ受賞されました。

(敬称略)

◆佐野市町会長連合会表彰

1月16日、佐野市町会長新春祝賀会
(於・ホテルサンルート佐野)

【通算5年以上在職役員表彰】

◇ 地方自治功劳　地方自治への永年の功績により、また危険業務への長年の精励により、3名の方が叙勲の栄に浴されました。



堀米町（菊川）町会・竹澤宏町長が、令和5年10月18日、自治会等活動への長年の功績により「全国自治会連合会表彰」を、同じく11月30日には、町会長として、長きにわたり良好な地域社会の維持及び形成に顕著な功績あつたと認められ「自治会等地縁による団体功労者総務大臣表彰」を受賞されました。

総務大臣表彰、全国自治会連合会表彰受賞おめでとうございます

【令和4年危険業務従事者叙勲「瑞宝双光章」】
川田 勝 上羽田町町長
【令和5年秋の叙勲「瑞宝單光章」】
田村僚一 角町町会長

【令和5年春の叙勲「旭日単光章」】
上岡良雄 佐野市町会長連合会顧問

市民活動モデル町会紹介

佐野市では、住民主体のより良い地域を作るために、住民が主体となつて取り組む元気な地域活動の募集・選考を行い、採択となつた町会を「モデル町会」として交付金の交付、活動のPRを行つ等の支援をしています。

下秋山町会

花いっぱい

運動事業



今回紹介するのは、下秋山町会の「花いっぱい運動事業」。町内の県道沿いにフラワー・ボックスを設けて、季節ごとの花を植え、景観を良くすること。また、秋山川沿いの桜の木の手入れを行つて、地域の名所を残して、地域住民の憩いの場、心の安らぎの場とする目的として取り組まれている事業です。

同活動の代表者である戸叶光一町会長は「フランワーボックスは、地域の高齢者に管理を任せることで、責任と生きがいを持つもり、枯れた桜の整備をすることで安全に花見や散歩ができる。この取り組みによって、地域の方々が喜び、交流を深める「助になれば嬉しい」と活動の成果に期待を寄せられました。

会沢地区福祉運動会

10月1日(日)、会沢地区ミニヨリ大会センターで「第20回会沢地区福祉運動会」が、会沢地区住民約130人が参加し開催されました。

同運動会は、



若い方々や高齢者の皆さん、重な場として、地区住民の方々の交流の場として実施されているも

のです。参加者は、各町会からの大声援を受けながら、各種競技を存分に楽しんでいました。

三好地区レクリエーション大会2023

10月22日(日)、旧三好小学校で「三好地区レクリエーション大会2023」が、三好地区住民約300人

佐野日本大学学園との意見交換会

11月29日(水)、佐野日本大学学園と地域との連携を深めることを目的とした、学園見学会を行いました。

協議では、「地域行事への学生の参加については受業に支障がない限り積極的な協力を図る」との学園側の考え方を行う」との学園側の考え方などが示されるなど、有意義な交換会となりました。

地域活動紹介

「パン食い競争」等白熱した競技が行われ、競技者を応援する声援や歓声が、快晴の秋空に響き渡つていました。

野上物産市

11月19日(日)、野上支所敷地内で、野上物産市が開催されました。



米、生そば、イワナの炭火焼など、自然の恵み豊かな野上地区の产品が、訪れた方々を喜ばせていました。

編集後記

◇長年にわたり地域で活動され、各種表彰を受賞された町会長及び役員の皆さん、また叙勲受章者並びに大臣表彰受賞者の皆さん、大変おめでとうございます。日頃の諸活動のご尽力に対し、心から敬意を表します。今後とも更なるご活躍をご祈念いたします。

◇令和5年4月1日から、町会長連合会事務局が市から独立し、新たに活動を始めましたのでご紹介します。町会は、住民の方たちと共に災害対応や相互扶助など、地域のために様々な活動を行っています。一方、町会長相互の連絡や情報を共有し、市政への協調と民意の反映に努め、楽しく明るい地域社会を築くことを目的に設置されているのが、佐野市町長連合会です。

これまで同会の活動は、市の職員が連絡体制で、各種事業の進展や新たな事業の実施など、町会長連合会の自主的自立的な活動を促進してまいります。

(須藤記)

発行者 佐野市町長連合会
〒327-1850
栃木県佐野市高砂町1番地

発行責任者 佐野市町長連合会
〒327-1850
栃木県佐野市高砂町1番地
☎0283-85-73200

編集部会員
松片柳 須藤 厚木 健志
石井根 石井信夫
関根誠 義雄 準二

アドバイザー
齊藤 優二
武悦雄 倭俊夫
久村 純一

▼佐野市町長連合会は市内全域167町会で組織されています。



佐野市町長連合会情報は
「佐野市町長連合会 Facebook」で発信しています。ご覧ください。